



### 三つの資質・能力とその関わりせ方

新学習指導要領では、小学校音楽科の目標を「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力の育成」と示した上で、図1のように、資質・能力別の目標を示しました。

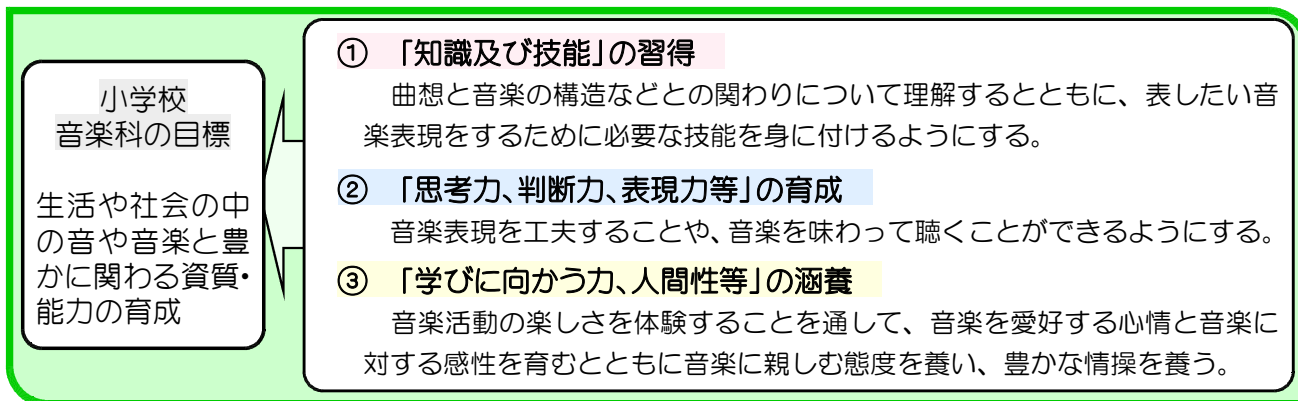


図1 小学校音楽科の目標と三つの資質・能力の整理

三つの資質・能力は、一体となって働くことが重要であるため、音楽科の目標を達成するためには、三つの資質・能力を相互に関わらせて育成する必要があります。また、「知識及び技能」を習得してから「思考力、判断力、表現力等」を育成するといった一定の順序性を持って指導することがないようにすることも大切です。

#### ポイント



これまでの教育課程が、主に「何を教えるか」という観点で編成されていたのに対し、今回の改訂では、それらを「何ができるようになるか」にまで発展させて編成されているのが着目すべき点です。

「学習指導要領改訂の方向性」<sup>(1)</sup>等については、[こちらをクリック⇒](#) [リンク](#)

つまり、新学習指導要領では、今持っている「知識及び技能」を用いて「何ができるか」や、それらを「どう使うか」にまで考えを発展させ、様々な課題解決を図ったり、学んだことを生活に役立てたりすることができる**生きて働く「知識及び技能」**を習得できるようにすることが求められているのです。

そこでは、必然的に、**未知の状況にも対応できるようにするための「思考力、判断力、表現力等」**が働くようになります。また、**学びを社会や人生に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」**も必要となります。ですから、この三つの資質・能力は、一体となって働くことが重要なのです。

### 生きて働く「知識」についての考え方

生きて働く「知識」について、答申では、次のように述べられています<sup>(2)</sup>。

子供たちが学ぶ過程の中で、新しい知識が、既に持っている知識や経験と結び付けられることにより、各教科等における学習内容の本質的な理解に関わる主要な概念として習得され、そうした概念がさらに、社会生活において活用されるものとなることが重要である。

生きて働く「知識」を習得するためには、既に持っている知識や経験と結び付けながら更新を重ね、それらが断片的な理解にならないようにする必要があります。また、「知識をどのように使うか」にまで考えを発展させ、実際にそれらを活用できるようにするとともに、使う喜びや有用性を実感させ、社会生活で活用していこうとする心情を培うことが大切です。

ポイント



「知識」のみを単独で育成するのではなく、三つの資質・能力を相互に関わらせながら育成することで生きて働く「知識」が身に付くようになります。それらは、社会生活において生涯にわたって活用できるものであり、人生を豊かにする価値あるものです。

本研究における生きて働く「知識」についての考え方

本研究では、生きて働く「知識」を図2のように、「聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて自分なりに理解したことを、新たな音楽活動で活用しながら更新し、表現や鑑賞に生かす喜びを感じる事ができるもの」と捉えます。

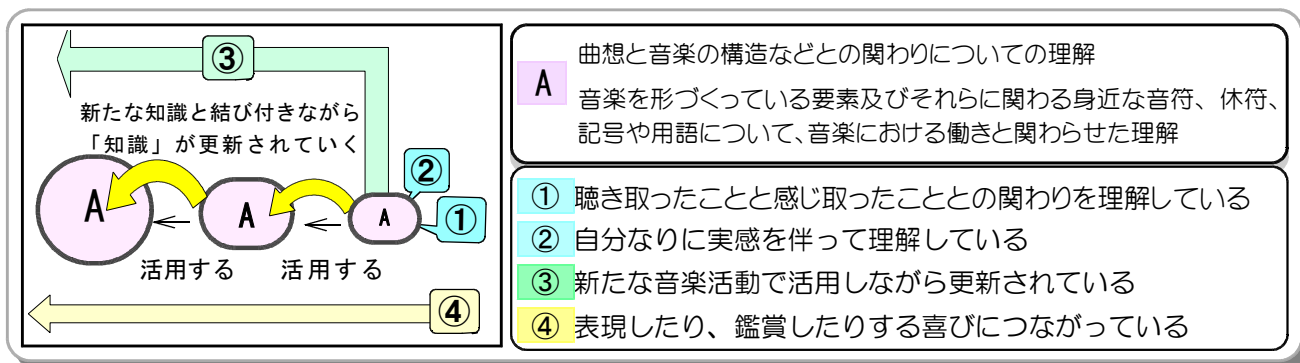


図2 生きて働く「知識」の捉え方（生きて働く「知識」の育成過程と条件）

《引用文献》

- (1) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成28年12月 補足資料第1部 1
- (2) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）』 平成28年12月 第5章2